

# 岩谷産業株式会社 中央研究所

Iwatani R&D Center

No. 03-34-2014作成

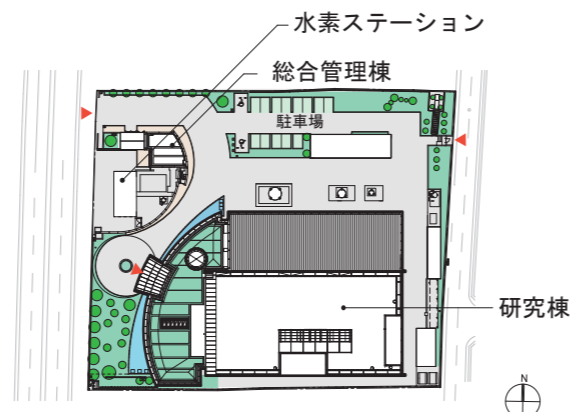
新築  
研究所

発注者	岩谷産業 株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	株式会社 大林組		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

## 環境 × 企業理念

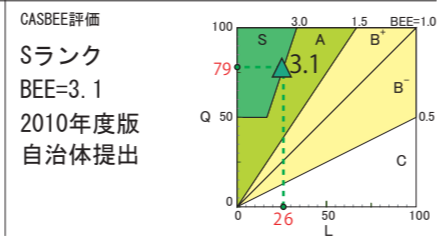


**中央研究所**  
この建築は「ガス&エネルギー」を企業コンセプトとする岩谷産業の新中央研究所である。ここでは、自社開発のみならず、パートナー企業をはじめ大学・公的研究機関や行政団体等とのコラボレーションによって新技術・新製品を造り出すために、あらゆる高度で複雑な要望に対応する世界トップレベルの各種分析機器・多彩な試験環境と技術がワンストップサービスとして提供される。また、企業の歴史や取り組み活動を紹介し、新製品の発表やプレゼンテーションを行う設備も併設されている。重要な研究開発拠点として、かけがえのない資源であるガスに「技術のイワタニ」のテクノロジーによって新たな価値を創造し、社会に向けて発信することが、この新中央研究所の設立趣旨である。



配置図 S=1:2000

所在地	兵庫県尼崎市
竣工年	2013 年
敷地面積	7,420㎡
延床面積	11,619㎡
構造	S造
階数	地上7階



## 環境に呼応する

西側の幹線道路からアプローチし、グリーンに描かれた白く屹立するガスタンクに導かれ、岩谷産業グループの製品である壁面緑化を施した緩やかな曲面の打ち放しコンクリート面に沿って来場者は奥へと導かれる。動から静へと誘うシークエンスを経由することで風景が変容し、迎えるエントランスを水景とその繊細な流水音、豊かな緑化を施した庭園が演出する。来る水素社会のインフラ実現に取り組む岩谷産業の姿勢を表現するために、CASBEE Sクラス（自治体提出）の取得は必然であった。水から生まれ水に還るクリーンエネルギーである水素を水景にメタフォリカルに表現し、経営の柱のひとつとする植物工場の活動を豊かな緑化やハーブの香る屋上庭園、オフィスの外部化した中庭などの視覚的な環境整備として捉えた。また、雨水利用や太陽光発電、BEMSを組み込み、人と環境の共生を目指す企業理念を表現することを意図した。なお、道路に面して設置した水素ステーションは、岩谷産業の未来を表徴する新しい顔として2014年春にオープンした。



設計担当者  
統括：近井務/建築：東井嘉信、永野一朗、岡村吉展/構造：古島正博、設備/藤木暁、高田隆司

- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (ゆとりのある階高 (1階4.8m、2~6階4.4m、最上階3.9m) 設定)
  - Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (水景、既存樹木の保存)
  - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (植栽配置計画、周辺のまちなみに配慮した建物配置)
  - LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然通風・採光を促す中庭設置、太陽光発電システム)
  - LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (リサイクル建材の使用 (ビニル床材、OAフロア、断熱材 (スタイロフォーム) 等))
  - LR3. 2. 地域環境への配慮 (透水性舗装及び保水性緑化ブロック舗装、屋上緑化)